

令和6年1月24日

国土交通省 中国地方整備局長

中崎 剛 殿

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

委員長 関根雅彦

### 芦田川河口堰定期報告書の総括について

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会は令和6年1月24日に芦田川河口堰に関する定期報告の審議を行い、下記11名の意見により本フォローアップ委員会としての総括をとりまとめたので提出する。

#### 記

氏名	役職	専門分野等
井上 たくや 卓也	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授	河川工学
海野 てつや 徹也	広島大学大学院 統合生命科学研究科 教授	魚類
清家 やすし 泰	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 客員教授	水質
関根 ままひこ 雅彦	山口大学大学院 創成科学研究科 教授	水質
田原 ひろし 博	日本野鳥の会 島根県支部 支部長	鳥類
鶴崎 のぶお 展巨	鳥取大学 名誉教授	動物
中越 のぶかず 信和	広島大学 名誉教授	植物
三輪 ひろし 浩	鳥取大学学術研究院 工学系部門 教授	河川工学
矢島 ひろし 啓	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 教授	水環境
山田 ともこ 知子	比治山大学 現代文化学部 教授	社会環境
吉田 けいすけ 圭介	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 准教授	河川工学

- 「第34回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「芦田川河口堰定期報告書」の審議を行った。
- 審議は、「洪水の安全な流下、利水補給、堆砂、水質、生物、堰と地域との関わり」の6項目について、平成30年度から令和4年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下の通りである。

#### 1. 「洪水の安全な流下」

評価期間である平成30年度から令和4年度の間には堰への流入量が500m<sup>3</sup>/sを超える洪水が7回生じたが、適切なゲート操作により洪水を安全に流下させ、所期の機能を発揮している。

今後、気候変動等の影響により水害の激甚化・頻発化が懸念されるため、堰の治水上の効果を最大限発揮できるよう、洪水の安全な流下のために引き続き適切な堰操作を行われたい。

#### 2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後も堰を適切に管理・運用し、受益地への利水補給を行われたい。

#### 3. 「堆砂」

貯水池内の堆砂量は総貯水容量の1割程度であり、管理上の問題は生じていない。今後も適切な方法により測量等を継続して実施し、堆砂状況を把握されたい。

#### 4. 「水質」

利水上の問題は生じてはいないが、アオコの発生といった富栄養化現象が発生している。また、湛水域のBODが上昇傾向にある。このため堰の管理・運用に必要な水質や底質の調査に加えて、芦田川の富栄養化現象のメカニズムを把握するための調査を実施し、資料の蓄積を図られたい。

また、弾力的放流等の水質保全対策については適切な運用と維持管理を行うと共に効果把握のための調査を行い、適宜効果向上のための取り組みを実施されたい。

さらに、堰管理者の水質改善の取り組みについて、様々な広報手法や地域団体との連携等を通じて一般の方々が効果を実感できるように取り組まれたい。

#### 5. 「生物」

生物の生息・生育環境に大きな変化は確認されていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育環境の把握に努められたい。

また、環境保全対策については、適切な維持管理や効果把握のための調査を実施し、課題の抽出や効率的な運用方法の検討について取り組まれたい。

#### 6. 「堰と地域との関わり」

芦田川河口堰が果たす治水や利水の役割について、その貢献状況が地域に理解されるように「堰管理の見える化」を促進されたい。

また、芦田川かわまち広場の整備など身近な自然に触れ合う場やスポーツ活動の場については積極的な利用が継続されるように取り組まれたい。

さらに、水質改善や防災に関しては、教育機関や地元団体との協力・連携を行うスキームを構築し、一般の方々に堰管理者の取り組みを広く浸透されたい。

以上